

生活リハビリサポートすばる 自立訓練(社会福祉法人 武蔵野)

自立訓練は、病気や事故などで障害を持った方が病院を退院後に自宅に戻られたとき、その後の人生を自分らしく生きていくために必要な様々な課題と一緒に考え、その方の希望に沿った生活を再建していくお手伝いをしています。

対象者は、市内在住で18歳から65歳未満の身体に障害のある方です。平日の午後1時から3時30分までが訓練時間で、希望者には送迎があります。リハビリや福祉にかかわる専門職が力を集めて、日常生活や社会生活を営む上で必要な身体機能や生活能力の維持・向上などのお手伝いをします。自立訓練は最長1年半という期限が法律で決まっています、その中で安心して在宅生活を送り、その人それぞれの人生の再出発が出来るように社会参加に向けて必要なことをお手伝いしていきます。



生活リハビリサポートすばる 中途障害者デイサービス(社会福祉法人 武蔵野)

中途障害者デイサービスは、病気や事故などで障害を持った方で、市内在住の18歳から65歳未満の身体に障害のある方が対象です。平日の10時15分から16時15分までが活動時間で、希望者には送迎があります。また昼食は、希望者は宅配のお弁当を注文することができます。

社会参加のための日中活動の場として、グループ体操や創作的活動・調理的活動・外出活動・レクリエーション・サロンなどの活動をしています。活動の内容等も利用者の皆さんが話し合って決めたことを、それぞれが役割を持ちながら行っています。様々な人生を送ってきた利用者さん同士が、それぞれ得意なことを活かし楽しく活動に参加しています。

障害者福祉センター 副施設長 伊藤 泉



武蔵野市

障害者福祉センター

2018
3

社会福祉法人武蔵野 武蔵野市障害者福祉センター 八幡町4-28-13 ☎55-3825 FAX51-9951 ◆cnt-syogaisya@fuku-musashino.or.jp



題字：生活介護ご利用の皆様 押し花レイアウト：K.S.様

「自立と社会参加」

武蔵野市障害者福祉センター
所長 田口 誠

武蔵野市障害者福祉センターは身体障害者福祉センター(B型)として昭和55年12月に開設しました。「国際障害者年」や「国連・障害者の10年」などを背景に、多くの当事者・支援者団体が様々な活動を活発に行い結実したものです。そしてその時、障害者福祉センターに掲げられたスローガンが「自立と社会参加」でした。当時の「障害」は医療モデルの定義でしたので、「自立」の意味も障害の克服が大きなテーマであり、機能回復訓練の場が強く求められていたことからそれが伺えます。また、障害者が利用できる福祉サービスも限定的で、行政が決定する「措置」という形で提供されていたため、社会活動への参加も大きく制限されており、当事者団体、支援団体等の活発な活動の原動力になっていました。

その後、社会福祉基礎構造改革による「措置」から「契約」への移行、障害者基本法の改正による「障害」の社会モデルの定義への変更等、障害のある方を支える社会福祉の仕組みは大きく変わり、享受できるサービスも非常に多くなり、障害のある方の生活は大きく変わりました。

そして今、運営主体は市直営から社会福祉法人武蔵野に変わりましたが、武蔵野市障害者福祉センターの掲げるスローガンは開設当初と全く変わらず「自立と社会参加」です。しかし、「自立」の意味や「社会参加」の意味は開設当初とは大きく異なります。たとえ障害があっても主体的な生活と、自己実現のための活動への参加が保障される社会の実現、これが障害者福祉センターの目指す社会です。見た目、斬新なデザインで開設当初はピカピカだった障害者福祉センターも、37年の時を経て、ちょっと古ぼけ、使いづらくなった所もありますが、勝負は中身!障害のある方の「自立と社会参加」を目指して職員一同頑張っていきたいと思っています。

今号は武蔵野市障害者福祉センターを活動の拠点として利用している2つの法人『社会福祉法人武蔵野千川福祉会』及び『社会福祉法人 武蔵野』の各事業所の様子をお伝えいたします



千川作業所(社会福祉法人 武蔵野千川福祉会)

千川作業所は、東京都で3番目の小規模作業所として、1976(昭和51)年に設立されました。当時は、東京都が1974(昭和49)年に障害児教育において全員就学を実施し、障害のある人の働く場づくりが課題となっていました。そこで武蔵野市内の知的障害のある方のご家族が集まり、作業所をつくったのが始まりです。当初は予算も少なく運営が厳しかったため、廃品回収を行ったり運営のための資金づくりや、1977年には、全国の16の作業所で、「共同作業所全国連絡会(現きょうざれん)」を作り、交流、学習、要請運動を展開してきました。一方、利用者は年々増加し、作業所を増やしながら、利用者の働く力に合わせて各作業所の特徴を出してきました。その中で千川作業所は働くことが生きがいとなるようにと展開し、現在は障害者総合支援法の生活介護事業所として生活の安定、働く土台づくりを目指して日々利用者を支援しています。

千川作業所 所長 唐澤 啓一



千川さくらっこクラブ・千川おひさま幼児教室

(社会福祉法人 武蔵野千川福祉会)

千川さくらっこクラブは2010(平成22)年4月に開所した障害児放課後児童クラブ(学童)です。市内在住で愛の手帳を所持している小学生を対象に、放課後に適切な遊び及び生活の場を提供して、その健全な育成を図ることを事業の目的としています。

学校から帰ってくると、1階の受付で元気よく「ただいま〜!」と挨拶。天気がよい日は皆で近隣を散歩したり、公園に遊びに行ったりしています。

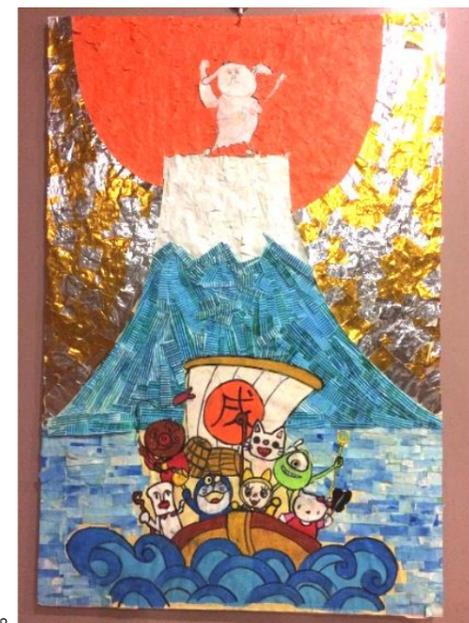
千川おひさま幼児教室は2010(平成22)年10月に開所した児童発達支援事業所です。市内在住で発達が緩やかな未就学のお子さんを対象に、遊びを中心とした活動を提供して健康な心と体を育て、基本的な生活動作・生活習慣の獲得を事業の目的としています。

8月はセンターのご厚意で中庭にビニールプールを出して水遊びをさせていただいています。

両事業所は福祉センターの3階にあります。入園したばかりの3歳児のお子さんも頑張って階段を上がっています。

10時から13時半までは「千川おひさま幼児教室」の未就学児を受け入れ、13時半以降は「千川さくらっこクラブ」の児童を受け入れています。同じ場所で2つの事業所を展開しています。

千川さくらっこクラブ・千川おひさま幼児教室 所長 照沼潤二



✿「さくらっこクラブ」のアートの時間で制作した作品です。